

# 保育者養成における保育実践力育成に関する研究—Ⅳ

—オノマトペに着目した言葉遊びの実践—

吉 江 幸 子

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

第 3 号

2022 年

## 保育者養成における保育実践力育成に関する研究—Ⅳ

### —オノマトペに着目した言葉遊びの実践—

吉 江 幸 子

#### 要約

オノマトペ（擬声語・擬態語）は、絵本や歌など子どもの表現活動を促す場面で頻出する。本研究では、子どもと学生の交流体験において言葉遊びを企画・実践し、参加観察法を用いて子どもが発したオノマトペを記録した。その結果、学生が予想したオノマトペと同じ言語が発見できた。そのほかにも、絵の一部分をイメージ化して表現していることがわかった。いくつかの発見や反省は、学生の教育に効果があった。

#### 1. 研究の目的

平成 29 年改訂の保育所保育指針（厚生労働省、2017）において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が具体的に明示された。保育所保育指針とは、保育所における保育の基本的な考え方やねらい及び内容など保育の実施にかかる事項と運営に関する事項で構成されており、全国の保育所がこの指針に基づいて保育の内容を計画的に実践している。言わば保育所保育の質を保証するものである。この保育所保育指針における「保育の内容」は、乳児保育に関わる保育のねらいと内容、1 歳以上 3 歳未満に関わる保育のねらいと内容、3 歳以上に関わる保育のねらいと内容で構成されている。これら各発達期のねらいと内容は、保育者が見通しをもって子どもの育ちを支援する際の組み立てであり、保育の計画を立案する際の目安ともなる五つの領域で明示されている。その五つは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の各領域であり、幼児教育施設（保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園）が保育実践活動で育てていくことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見えてくる。

本稿では、「保育内容演習（言葉）」「保育内容演習（表現）」の授業で取り組んだ学修内容をもとに、実際に子どもと関わる中から保育実践力の向上にどのような効果がみられたか、成果と課題を検証する。

#### 2. 領域「言葉」「表現」とオノマトペ

3 歳以上の言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいは次のように示されている。

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。

- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

子ども自身が感じたり表現したいことを言葉で話し、相手の話す言葉を聞こうとする気持ちや態度を育てる領域であり、話したり聞いたりする中から絵本などを通して文字に対する興味関心へとつなげていく保育実践力が求められる。

3 歳以上の感性と表現に関する領域「表現」のねらいは次のように示されている。

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

子どもたちがさまざまな素材に触れることで感じたことや考えたことを言葉や表情、身体を駆使して表現して豊かな感性を育む保育実践力が求められる。素材には、自然、音楽、造形、言葉など子どもを取り巻くあらゆる環境が素材となり得る。

これら「言葉」と「表現」領域に関連した保育実践としてオノマトペ (onomatopée) に注目した。オノマトペはフランス語由来の語であり、擬音語・擬態語の総称として用いられることが多い。保育現場では絵本や子どもの歌を通して知ることができる。「もこ もこもこ」作：谷川俊太郎、「びよーん」作：まつおかたつひで、「じゃあじゃあびりびり」作：まついのりこ等があり、子どもの歌におけるオノマトペも多数抽出することができる。例えば「おおきなたいこ」ではドーンドン、「メリーさんのひつじ」では「メエメエ」の擬音語が含まれる。

擬音語・擬態語の区分けにはさまざまな研究があるが、

表-1 由仁町地域連携事業 60分間の保育交流計画

企画名	散歩と言葉遊び（オノマトペ）ゲーム
実施場所	学校法人由仁学園 三川保育園
対象人数	年長児6人
実施日	2021年7月15日(木) 午後1時15分～2時15分頃
参加学生	学生 3年生6人
事前準備	①言葉あそびとしてのオノマトペ（絵、動き、表情）カード ②帽子、検温、不織布マスク、手指消毒液
内容・計画	①到着 ②園の玄関前で子どもと対面 ③学生あいさつと自己紹介（学生A担当） ④子どもと散歩（1対1、手をつなぐ） ⑤木陰到着 ⑥学生が前に出て言葉遊びの説明（学生B・学生C担当） ⑦絵を見て子どもたちが、擬態や擬声語で表現できるよう見本を示す ⑧説明者以外の学生は、子どもの間に入って一緒に楽しむ ⑨子どもの言葉を記録（学生D担当） ⑩言葉遊びが終わり、園まで散歩（帰園） ⑪学生（学生E担当）が最後の挨拶をして終了 一緒に記念撮影 ※行き帰りの散歩時間によって、言葉遊びの時間配分を調整

感覚的にとらえたものを言葉で表現する際に重ね言葉を使って表すことが多い。

言葉を重ねることでリズムやテンポが感じられ、語彙の少ない子どもにも伝わりやすく子ども自身が使いやすいからである。

(1) 音に関する語

にゃーにゃー（猫の鳴き声）  
とんとん（かなづちをたたく音）  
パシャパシャ（水たまりを踏む音）

(2) 状態を表す語

ぐるぐる（円を描く、目がまわる等）  
ふーふー（熱いものを冷ます、息を吹く）  
なでなで（頭を撫でる）

(3) 心情を表す語

ドキドキ  
そわそわ  
冷や冷や

このように、絵本、歌、保育者の言葉がけにも多数のオノマトペが使われている。講義で学生に問かけると多数のオノマトペを思い浮かべることができたため、保育交流時に学生自身の気づきを促す教材として適していると考え、取り組むこととした。

以下、保育交流の方法と事前学習、事後学習を通して、学生の保育実践力向上の効果と課題を挙げる。

### 3. 研究の方法

本学と地域連携協定を締結している由仁町（北海道夕

張郡由仁町）にある保育園の年長児と学生との交流事業を対象とした。子どもとの直接交流を通し、学生が企画した活動実践をする中で、子どもがどのようなオノマトペを活用するのかを参加観察法によって記録した。

#### 3-1 対象及び実践活動日

- ・学校法人由仁学園三川保育園5歳児6名
- ・社会福祉学科教育専攻3年生1名
- ・社会福祉学科子ども保育専攻3年生5名
- ・2021年7月15日に保育園訪問。

#### 3-2 交流の方法

授業科目「保育内容演習Ⅳ（言葉）」「保育内容演習Ⅴ（表現）」の2科目を横断的に活用し、60分間の保育交流計画を立案した（表-1）。交流活動のメインは散歩と言葉遊びとし、学生が考えたクイズにオノマトペで答えてもらう遊びを授業の中で考えた。計画案は事前に保育園側に提示し、了承を得たうえで実施日に訪問して子どもたちとの保育交流を実施した。

#### 3-3 学生の事前学習

##### (1) オノマトペの学習

保育内容演習Ⅳ（言葉）では、教科書「保育に役立つ言語表現教材」（松本和美、2018）を使い、オノマトペについて事前学習した。この教科書は絵本、紙芝居、ペープサート、ストーリーテリングなど児童文化財の基本的な扱い方や環境構成、具体的展開のための技術修得に適した教材である。特に絵本の種類や発達に合わせた絵本

表-2 言葉遊びゲームの制作

分類					
数	動物	乗り物	音	感情	動作
1	イヌ	自動車	なべ	笑う	歩く
2	ネコ	救急車	カミナリ	怒る	ジャンプ
3	ゾウ	ヘリコプター	風船	泣く	ドアをたたく
4	ヘビ	電車	ハサミ		拍手
5	ブタ		時計		ものを探す
6	トリ		雨		寝る
7			星		食べる
8			注射		お腹が減った



写真-1

選びの講義において、前述したオノマトペを学修した。その内容をもとにオノマトペを利用した言葉遊びゲームの保育交流を計画した。

(2) 言葉遊びゲームの制作

学生からは、学生自身が子どもの前でジェスチャーし、連想されるオノマトペの語を記録する案が出たが、初対面同士で恥ずかしさからジェスチャーできないのではないかと意見が出たことから、描いた絵を見て連想するクイズ形式（写真-1）と、ジェスチャーによるものの2タイプを準備した。学生が分類した言葉遊びゲームは次の5分類29種類である（表-2）。

- ・動物：6種類（描画）
- ・乗り物：4種類（描画）
- ・音：8種類（描画）
- ・感情：3種類（ジェスチャー）
- ・動作8種類（ジェスチャー）

(3) 予想されるオノマトペ一覧

29種類の動作や動物、乗り物等に関し、学生が思いつくオノマトペを事前に抽出した。表-3に示した通りで

表-3 学生が予想したオノマトペ一覧

動物	イヌ	わんわん、きゃんきゃん
	ネコ	にゃーにゃー
	ゾウ	パオーパオー、ドスドス
	ヘビ	によろによろ
	ブタ	ぶーぶー、おひおひ、ふがふが
	トリ	カーカー
乗り物	自動車	ブーブー
	救急車	ウーウー、ピーポーピーポー
	ヘリコプター	ガタガタ、コトコト
	電車	ガタンゴトン、ポッポー、ガッタンゴットン
音	なべ	ぐつぐつ、コトコト
	カミナリ	ゴロゴロ、ピカピカ
	風船	プカプカ、ふわふわ
	ハサミ	チョキチョキ
	時計	チクタク、カチカチ、ジリジリ
	雨	ザーザー
	星	ピカピカ、キラキラ
	注射	チクチク、イタイタ
感情	笑う	ゲラゲラ、へらへら、わらわら
	怒る	ブンブン、むかむか
	泣く	えーんえーん、シクシク
動作	歩く	テクテク、トコトコ
	ジャンプ	ビョーンビョーン
	ドアをたたく	コンコン、ドンドン
	拍手	パチパチ
	ものを探す	キョロキョロ、ガシャガシャ
	寝る	グーグー、スヤスヤ
	食べる	もぐもぐ、ムシャムシャ、ズルズル
	お腹が減った	グーグー

合計 54 語

ある。

動物の鳴き声は、6種類の動物で例えば犬→わんわん、キャンキャン等10の語を予想した。乗り物4種類では電車→ポッポー、ガタンゴトン等8つの語、はさみや雨

等の音8種類からはチョコキチョコキ、ザーザー等15の語、感情で笑う→ゲラゲラ、へらへら等3種類で7つの語、歩く・ジャンプ等8種類の動作では、テクテク、ビョーンビョーン等14の語を抽出した。

### 3-4 参加観察法

心理学研究法の一つに参加観察法がある。保育現場においても保育者が子どもを観察して発達経過を記録したり、保育実習生が実習日誌に子どもの姿を記録したりする際にも子どもの行動を捉える方法として用いられている。単に子どもを見るのが観察ではなく、どのような内面（心の動き）がその行動を誘発しているか内面的理解と行動理解が観察としての第一歩である。観察者の主観を完全には取り除けないが、場面に手を加えずできるだけ自然な状況を観察する方法を事前学習した。

今回の訪問では、子どもが発するオノマトペを記録する担当者を1名決めた。記録しているところを子どもに見つかり、子どもが意識することによって正しい記録が取れない可能性もあるため、子どもから少し離れた位置で観察した。記録方法については、表-3の項目通りにチェックシートを用意して子どもが発した語を○印でチェックし、さらに空欄を設けて子どもが発した語を追加記入した。

## 4. 結果

雨天時の代替案を用意したが交流当日の天候は晴れ、予定通りに子どもと散歩しながら途中の木陰で言葉遊びを実践した。

### 4-1 学生の予想と子どものオノマトペ

学生が予想したオノマトペは全部で54語だったが、実際には「感情」「動作」のジェスチャーで表現できないものがあつた。出題担当の学生が感情3種類のうち1つ、8種類の動作のうち4つを実践した。緊張して練習した通りのジェスチャーができなかった。

子どものオノマトペは全部で26語あり、オノマトペ以外の言語表現も記録された。表-4に子どもが発したオノマトペの一覧とそれ以外の言語表現を<sup>1)</sup> <sup>2)</sup>の上付き文字で表記した。

### 4-2 保育者側の遊びの仕掛け（環境設定）

今回は散歩と言葉遊びゲームを企画して訪問したが、保育園側でも事前準備がされており、当日の保育交流で知ることとなった。

### (1) 散歩：オリエンテーリングとしての仕掛け

訪問日前日に、A3サイズにラミネートされた絵カードが散歩コース内の6か所に隠されていた。このカードは風で飛ばされないよう紐で結ばれたり、大きめの石が置かれていたり木の幹に結んであり、散歩の1時間前にも保育士によって事前確認がされていた。

### (2) カードを利用した子どもの歌の発表

散歩途中の木陰で学生が考案したゲームの後、子どもたちの発表が披露された。子どもたちが気に入って歌っている「はらべこあおむしのうた」にあわせ、6人の子どもたちが、りんご・梨・すもも・いちご・オレンジ・チョコやケーキ等の絵カードを持って歌を披露した。この絵カードは4-2(1)で紹介したオリエンテーリングの際に子どもと学生が見つけたカードである。

## 5. 考察とまとめ

交流後の振り返りににおいて気付いた点をまとめる。表-4にある通り、学生と子どものオノマトペを比較すると概ね同様の表現であることがわかった。例えば動物の鳴き声や乗り物、音の表現は、童謡「犬のおまわりさん」でワンワンと歌ったり「こぶたぬきつねこ」でブタをぶーぶーと表したりしている。つまり子どもも学生も幼少期から見聞している歌や絵本等児童文化財の影響を少なからず受けていると考えることができる。

次に乗り物の絵「ヘリコプター」を見た時のオノマトペを比較する。学生はヘリコプターの形全体を通してイメージを表現した。それが「ガタガタ・コトコト」であったが、子どもはプロペラに注目し、「ぐるぐる<sup>2)</sup>」と言う回転動作をオノマトペで表現した。絵全体を追うのではなく絵から得た情報の一部に注目した言語表現と言えるであろう。

「とり<sup>1)</sup>」は写真-2にある通り描いたトリが4羽だったため、子どもの目がひとつのものに集中しなかったことが考えられる。描いた学生が「トリ」という題で「カラス」を想定したため色を黒く塗った。しかし、カラス以外にも黒色で小さなトリを描いたためカーカーやびよびよと発したり、複数いる鳥の絵全体を捉えて「とり」と単語で答えたりしたと考えられる。

また、写真-3「なべ」の絵で「シチュー<sup>3)</sup>」と表現した背景には、鍋に入っていた具材からの連想だと学生が気付いた。前述のヘリコプター同様、「なべ」と言う絵の一部分からイメージしたものと考えられる。

写真-4「むらさき・ピンク・クロ<sup>4)</sup>」は、1枚の用紙に複数の風船を描いたことでオノマトペよりも絵そのものに対してそれが何色かを言い表したと考えられる。ま

表-4

学生が予想したオノマトペ一覧		子どもが発したオノマトペ一覧	
動物	イヌ	わんわん, きゃんきゃん	わんわん
	ネコ	にゃーにゃー	にゃーにゃー
	ゾウ	バオーバオー, ドスドス	バオーバオー
	ヘビ	によろによろ	によろによろ
	ブタ	ぶーぶー, ぶひぶひ, ふがふが	ぶーぶー
	トリ	カーカー	<u>とり</u> <sup>1)</sup> , カーカー, びよびよ
乗り物	自動車	ブーブー	ブーブー
	救急車	ウーウー, पीポーピーポー	ピーポーピーポー
	ヘリコプター	ガタガタ, コトコト	<u>ぐるぐる</u> <sup>2)</sup>
	電車	ガタンゴトン, ポッポー, ガッタンゴットン	ポッポー
音	なべ	ぐつぐつ, コトコト	ぐつぐつ, <u>シチュー</u> <sup>3)</sup>
	カミナリ	ゴロゴロ, ビカビカ	ゴロゴロ
	風船	プカプカ, ふわふわ	<u>むらさき, ピンク, クロ</u> <sup>4)</sup>
	ハサミ	チョキチョキ	チョキチョキ
	時計	チクタク, カチカチ, ジリジリ	チクタク, カチカチ
	雨	ザーザー	ポタポタ, ポツポツ
	星	ビカビカ, キラキラ	キラキラ
	注射	チクチク, イタイタ	チクチク
感情	笑う	ゲラゲラ, へらへら, わらわら	未実施
	怒る	ブンブン, むかむか	未実施
	泣く	えーんえーん, シクシク	えーんえーん
動作	歩く	テクテク, トコトコ	テクテク, <u>手を振る動作で表現</u> <sup>5)</sup>
	ジャンプ	ビョーンビョーン	ドーンドーン
	ドアをたたく	コンコン, ドンドン	未実施
	拍手	パチパチ	未実施
	ものを探す	キョロキョロ, ガシャガシャ	未実施
	寝る	グーグー, スヤスヤ	スーサー
	食べる	もぐもぐ, ムシャムシャ, ズルズル	もぐもぐ, バクバク
	お腹が減った	グーグー	未実施
語数	54 語	26 語	

た、ジェスチャーで歩く真似をした際には子どもたちも「手を振る動作<sup>5)</sup>」を模倣した。「これはどんな動きかな？」という学生側の質問は、オノマトペによる返答を期待していても子どもには伝わっていなかった。

以上のように今回の交流では、言葉遊びとしてオノマトペで表現することが課題であった。子どもは絵やジェスチャーによってイメージをふくらませ、オノマトペ以外にも表現した。このことは、領域「言葉」や「表現」のねらい・内容にある「素材に触れることで感じたことや考えたことを言葉や表情、身体を駆使して表現すること」に通じる。当初学生が企画し、準備した通りにはならないものもあったが、なぜ計画通りにならなかったのかを振り返ることが学生にとっての学習効果である。反省会では、事前に考えたオノマトペ一覧と比較していくつもの意見が出された。準備の段階で練習したことを忘



写真-2



写真-3

れないようにするためにはどうしたらよいか（ジェスチャーの内容を忘れたことに対して）、「歩く」動作がなぜオノマトペで表現されなかったのか、絵カードの書き



写真-4

方によって子どもの受け取り方に違いが出るなど体験を通して子どもの活動を知ることができたのである。

保育者は毎日の保育において何気なく遊んでいるように見える活動であっても実は各領域の内容やその先にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して見守り、環境設定しているのである。そのことを学生が実践を通して体感し、評価できる機会を得ることができた。学生が企画・実践し、それを評価する一連の活動がPDCAの展開である。

今回の計画では、散歩で交流しながらオノマトペで表現する言葉遊びゲームを企画した。結果として、オノマトペで表現した項目と、別の言語表現や身体表現につながるものがあったことがわかり、学生の保育実践力の向上に役立つ結果となった。

#### 謝辞

本研究は、地域連携協定締結先の由仁町にある学校法人由仁学園三川保育園の5歳児及び保育職員の方々の協力による成果です。コロナ禍におけるいわゆる第4波が沈静化した頃合いを見計らって直接交流の機会を提供していただいた皆様に感謝申し上げます。

#### 〈参考文献〉

まつおかたつひで (2000). ぴよーん. ポプラ社.  
まついのりこ (1983). じゃあじゃあびりびり. 偕成社.  
エリックカール (1997). はらぺこあおむし. 偕成社.  
太田光洋 (2015). 保育内容・言葉. 同文書院.

小野正弘 (2007). 日本語オノマトペ辞典. 小学館.  
厚生労働省 (2017). 保育所保育指針平成29年告示. フレーベル館.  
厚生労働省 (2018). 保育所保育指針解説. フレーベル館.  
小林美実 (1975). こどものうた200. 株式会社チャイルド本社.  
駒井美智子 (2018). 保育者をめざす人の保育内容「言葉」第2版. 株式会社みらい.  
谷川俊太郎 (1977). もこもこもこ. 文研出版.  
塚本美知子 (2013). 子どもの理解と保育実践. 萌文書林.  
内閣府 (2017). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示. フレーベル館.  
内閣府 (2018). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館.  
中澤潤・大野木裕明・南博文 (1997). 心理学マニュアル観察法. 北大路書房.  
松本和美 (2018). 保育に役立つ言語表現教材第2版. 株式会社みらい.  
文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領平成29年告示. フレーベル館.  
文部科学省 (2018). 幼稚園教育要領解説. フレーベル館.  
吉江幸子 (2021). 保育者養成における保育実践力育成に関する研究—Ⅲ—. 星槎道都大学研究紀要第2号 pp99-104.

## Study on training practice ability of nursery care for nurturing teachers-IV

— Practice of the wordplay focusing on Onomatopoeia —

YOSHIE Sachiko

### Abstract

Onomatopoeia is a word often used in picture books and songs. In this study, students planned verbal play and interacted with nursery school children. The onomatopoeia spoken by the child was recorded using the participant observation method. As a result, I was able to discover the same language as the onomatopoeia that the students expected. In addition, it turned out that a part of the picture was visualized and expressed. Some discoveries and reflections have been effective in educating students.



